



# 櫛紅葉 (はぜもみじ)

## 【学校教育目標】

ふるさと中原を担う

志をもった生徒の育成

～自律と協働の学校づくりを通して～

発行：令和4年6月27日（月） （文責） 校長 田中 克三

## 令和4年度 生徒総会開催！

6月17日（金）、令和4年度の中原中学校生徒会の総会が開催されました。前々週には議案書が示され、各学級での討議を経て、総会での議論が進められました。生徒会本部と6つの専門委員会の活動案に対し、約40名の生徒が質問を行い、活発な質疑応答が繰り広げられました。

私が最も感心したのは、議案書のクオリティです。各専門委員会が立てた年間目標の設定理由がきちんと明記されているうえに、総括する生徒会本部の目標とのつながりがしっかり考えられていました。

「夢や目標をもち共に未完成な自分を完成させよう」

「自分の能力を開花させ、未来の土台として…」

「自分の適性は、様々なことにチャレンジすることで見えてくる」

「一人一人が美しい環境をつくるという意識をもって…」

まるで卒業文集のメッセージのような議案書のことばに、中原中生徒会のパワーを感じました。あとは実行力。期待しています！



【代表者の質問に真摯に答える生徒会役員】

### 【各部の年間目標】

本部	(生徒会スローガン) 夢に向かって飛べ！		
学芸	学習する習慣を身につけ、夢への土台を作ろう！	健康管理	自分で体調管理をして、一年間過ごそう
生活	笑顔を絶やさず明るく生活しよう	体育	将来、何事にも負けない、丈夫な体と心をつくろう！
美化	綺麗な校舎を保ち、過ごしやすい環境を整えよう	図書	本の楽しさに触れ、親しみを持ち、継続的に本を読んでもらう

## 最優先は自分の命！ —避難訓練・防犯教室—

6月21日（火）、不審者が校内に侵入したという想定で、避難訓練を実施しました。複数の職員が不審者に対応している間に、生徒は体育館へ速やかに避難することはできたのですが、「さす股」で不審者を取り押さえるのは想像以上に難しいものでした。対応した職員は、指導者の方からいざという時のコツを教えていただき、有意義な訓練となりました。

後半の「防犯教室」では、鳥栖警察署生活安全課の大坪さんから、護身術の基本的動作を含め、自分の身を守るための4つの心構え（「①危険と思われる場所に行かない」、「②物品に執着しない」、「③他への協力を求める」、「④臆病になること」）を教えていただき、命を最優先に行動すべきことを学びました。

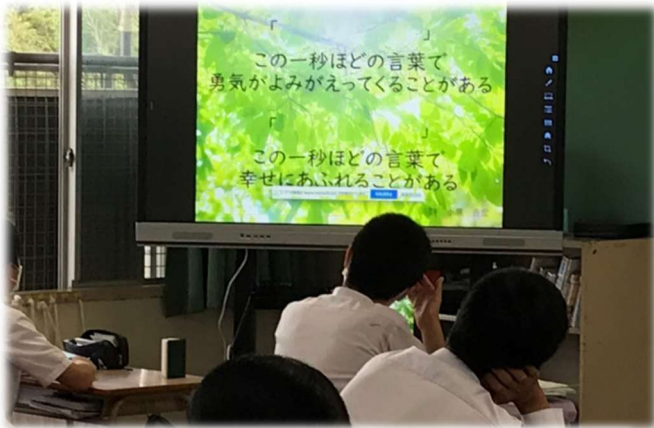
私は、大坪さんの「犯人は自己中心的。皆さんは、どうぞ相手の気持ちを思いやって学校生活を送ってください。」という最後の言葉が特に心に残りました。



## いのち生き方を考える日

6月20日(月)の全校朝会は、今年度1回目の「いのち生き方を考える日」と位置づけ、『ことば』について全校生徒に考えてもらう時間にしました。

というのも、先日実施した「いじめ・体罰アンケート」に、友達や教師の発言で嫌な思いをしたという記載が数件あり、自分の発した『ことば』が相手にどう受け止められるのかを想像することの大切さを今一度考えてほしいというねらいからでした。



【真剣にスライドを見つめる3年生】

各クラスの電子黒板にスライドを映しながら、放送で杠教頭による説話を行いました。杠教頭が説話の中で用いた詩を紹介します。

### 『一秒の言葉』 小泉 吉宏

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に、一生のトキメキを感じることもある。

「ありがとう」

この一秒ほどの言葉に、人の優しさを知ることがある。

「がんばって」

この一秒ほどの言葉で、勇気がよみがえってくることもある。

「おめでとう」

この一秒ほどの言葉で、幸せにあふれることがある。

「ごめんなさい」

この一秒ほどの言葉に、人の弱さを見ることもある。

「さようなら」

この一秒ほどの言葉が、一生の別れになることもある。

一秒に喜び、一秒に泣く。

一生懸命 一秒。

## 折々の魚たち② エツ

エツは成魚で30~40cmになるペーパーナイフのような細長い形をした魚です。前回のニッポンバラタナゴ同様、大変珍しい魚で、日本では有明海湾奥部のみで生息し、5月から8月ぐらいまでの時期に産卵のために筑後川などの河川を遡ります。最も有明海を思わせる魚の一つで、今の季節、筑後川流域の地域でのみ食すことのできるエツ料理を楽しみにしておられる方も多く、観光資源としても重要です。(みやき町周辺でも味わえます。時々、スーパーでも売ってあります。)

この珍魚にまつわるいくつかの伝説・伝承がありますが、その一つに佐賀県ゆかりの「徐福説」があります。昔、徐福が仙薬を求めて佐賀県の金立山に向かう際、一行が筑後川を上って上陸した場所(佐賀県佐賀市諸富町付近)が一面の葦(アシ)原だったので、それを手でかき分けながら進んだそうです。そのため片方の葉だけが川面に落ち、それが「エツ」という魚になったとされています。

この伝説を裏付けるかのように、現在もこの一帯には片方にしか葉をつけないアシが生えているそうです。そう言えば、「エツ料理」の観光パンフレットなどにはよく下のような写真が載っていますが、エツは下に敷いてある葦(アシ)の葉の化身だったのですね。

また、エツは「カタクチイワシ」の仲間、「斉魚」と書きます。「カタクチイワシ」と言えば、いりこ等になる最も漁獲量の多い魚の一つです。そんなポピュラーな魚の一種がこの筑後川流域限定の珍魚になっているというのも奥深さを感じます。

よく目にする葦やイワシに伝説となるような珍魚との関りがあるように、私たちの日常の中にも、大切にしたい貴重な何かが存在するのかもしれない。